

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社西武ホールディングス

コード番号 9024 URL <http://www.seibuholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 高志

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 川上 清人 TEL 03-6709-3112

四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け電話会議）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	432,626	2.6	59,488	1.2	53,327	1.3	36,829	1.3
2019年3月期第3四半期	421,662	5.8	58,807	7.5	52,618	9.0	36,358	8.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 30,232百万円 (△8.4%) 2019年3月期第3四半期 33,020百万円 (△4.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	119.40	119.29
2019年3月期第3四半期	115.79	115.69

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,719,644	440,025	25.2
2019年3月期	1,728,929	422,715	24.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 433,648百万円 2019年3月期 416,815百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	11.50	—	18.50	30.00
2020年3月期	—	15.00	—		
2020年3月期（予想）				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	573,800	1.4	67,500	△8.0	59,200	△9.5	40,000	△12.0	133.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 一）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	332,462,920株	2019年3月期	332,462,920株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	24,255,794株	2019年3月期	22,803,961株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	308,452,358株	2019年3月期3Q	313,995,155株

- (注) 1 株式給付信託が保有する当社株式を、期末自己株式数に含めております（2020年3月期3Q 1,865,600株、2019年3月期 283,100株）。また、株式給付信託が保有する当社株式を、期中平均株式数（四半期累計）の計算において控除する自己株式に含めております（2020年3月期3Q 1,497,843株、2019年3月期3Q 476,988株）。
- 2 持分法適用関連会社が保有する自己株式（当社株式）の当社帰属分を、期末自己株式数に含めております（2020年3月期3Q 21,998,594株、2019年3月期 22,120,813株）。また、持分法適用関連会社が保有する自己株式（当社株式）の当社帰属分を、期中平均株式数（四半期累計）の計算において控除する自己株式に含めております（2020年3月期3Q 22,120,369株、2019年3月期3Q 22,242,587株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び不確実な要因に係る仮定を前提として作成しており、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

業績予想（2020年3月期の連結業績予想）に関する事項については、添付資料P.6「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出が引き続き弱含んでいるものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで緩やかに回復しております。しかしながら、先行きについては、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱、中東地域を巡る情勢などの海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向が懸念されるなど不透明な状況であります。

このような状況のなか、当第3四半期連結累計期間においては、長期的な目標水準に向けて持続的かつ力強い成長を達成するため、3カ年の「西武グループ中期経営計画（2019～2021年度）」を策定し、「新たな視点でスピード感をもって、イノベーションに挑戦」と「長期的視点での成長基盤の確立」を基本方針として、「新規事業分野の創出」と「既存事業領域の強化」の2点を重点課題に取り組んでまいりました。

こうしたなか、2019年4月に大規模オフィスビル「ダイヤゲート池袋」が開業、当社をはじめとする3社が本社を移転し、所沢との2大拠点化による企業価値の向上に取り組むとともに、働き方改革や生産性向上を推進してまいりました。

また、SDGsを意識した社会課題解決に貢献すべく、持続可能な社会の実現に向けた取り組み「サステナビリティアクション」を積極的に推進してまいりました。「西武グループ環境方針」を策定し、環境負荷低減、環境保全に関する取り組みを進めるとともに、新型省エネ車両の導入及び太陽光発電所建設事業の一部の資金調達において、国内のホールセール債としては陸運業界初となる「グリーンボンド」を発行いたしました。

そのほか、埼玉西武ライオンズがパシフィック・リーグ連覇を果たしました。

当第3四半期連結累計期間における経営成績の概況は、営業収益は、4,326億26百万円と前年同期に比べ109億63百万円の増加（前年同期比2.6%増）となり、営業利益は、594億88百万円と前年同期に比べ6億80百万円の増加（同1.2%増）となり、償却前営業利益は、1,018億34百万円と前年同期に比べ31億63百万円の増加（同3.2%増）となりました。経常利益は、営業利益の増加により、533億27百万円と前年同期に比べ7億9百万円の増加（同1.3%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、368億29百万円と前年同期に比べ4億71百万円の増加（同1.3%増）となりました。

各セグメントにおける業績は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメントの名称	営業収益			営業利益			償却前営業利益		
	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)
都市交通・沿線事業	123,873	1,125	0.9	22,926	19	0.1	39,020	142	0.4
ホテル・レジャー事業	168,883	3,236	2.0	14,074	△1,295	△8.4	26,768	△720	△2.6
不動産事業	50,969	2,692	5.6	15,019	11	0.1	23,821	1,179	5.2
建設事業	76,389	800	1.1	3,510	△146	△4.0	3,836	△128	△3.2
ハワイ事業	16,601	2,658	19.1	269	1,463	—	2,342	1,640	233.7
その他	35,384	722	2.1	2,761	174	6.8	5,238	399	8.3
合計	472,102	11,236	2.4	58,561	228	0.4	101,029	2,514	2.6
調整額	△39,476	△272	—	927	452	95.5	804	649	417.8
連結数値	432,626	10,963	2.6	59,488	680	1.2	101,834	3,163	3.2

(注) 1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。

2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却額を加えて算定しております。

（都市交通・沿線事業）

都市交通・沿線事業の内訳は鉄道業、バス業、沿線レジャー業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	2019年3月期 第3四半期 連結累計期間	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	122,748	123,873	1,125
鉄道業	79,843	81,489	1,646
バス業	19,974	19,929	△45
沿線レジャー業	17,187	16,695	△492
その他	5,742	5,759	17

鉄道業で、雇用情勢の堅調な推移やメットライフドームでの野球・コンサート開催、ムーミンバレーパークなど沿線施設と連携した営業施策の実施に加え、大型連休の行楽需要を着実に取り込んだことなどにより、旅客輸送人員は前年同期比1.5%増（うち定期2.1%増、定期外0.7%増）となりました。旅客運輸収入は、特急や有料座席指定列車の増発に加え、新型特急車両「Lview」導入効果もあり、前年同期比1.3%増（うち定期1.7%増、定期外1.0%増）となりました。

そのほか、横浜アリーナにおいて、積極的なイベント誘致に努めてまいりました。

これらの結果、都市交通・沿線事業の営業収益は、台風19号に伴う鉄道業の計画連休の影響に加え、西武園ゆうえんちなど沿線レジャー施設が夏季の天候不順の影響を受けたものの、上記の取り組みなどにより、1,238億73百万円と前年同期に比べ11億25百万円の増加（同0.9%増）となりました。営業利益は、一般管理費が増加したものの、増収により229億26百万円と前年同期に比べ19百万円の増加（同0.1%増）となり、償却前営業利益は、390億20百万円と前年同期に比べ1億42百万円の増加（同0.4%増）となりました。

（ホテル・レジャー事業）

ホテル・レジャー事業の内訳はホテル業（シティ）、ホテル業（リゾート）、ゴルフ場業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	2019年3月期 第3四半期 連結累計期間	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	165,646	168,883	3,236
ホテル業（シティ）	97,418	100,255	2,837
ホテル業（リゾート）	31,308	31,487	178
ゴルフ場業	11,048	10,712	△336
その他	25,869	26,427	558

（注）1 ホテル業（シティ）には主に大都市圏の中心商業地域やターミナル及びその周辺地域に立地するホテルを含んでおります。ホテル業（リゾート）には主に観光地や避暑地に立地するホテルを含んでおります。

2 以降の項目において、ホテル業（シティ）に属するホテルを「シティ」、ホテル業（リゾート）に属するホテルを「リゾート」と称する場合があります。

ホテル業の宿泊部門では、レベニューマネジメント（注1）を着実に実施したことにより、シティのRevPAR（注2）が前年同期比で上昇いたしました。また、大型連休における行楽需要の着実な取り込みが、増収に寄与いたしました。宴会部門では、MICE（注3）が堅調に推移し、食堂部門では、都内のホテルにおける積極的な営業施策の実施などにより、堅調に推移いたしました。そのほか、会員制ホテル事業「プリンス パケーション クラブ」について、2019年7月に3施設を開業し、増収に寄与したことに加え、ラグビーワールドカップ開催に伴う需要の着実な取り込みがホテル業全体で増収に寄与いたしました。

- (注) 1 レベニューマネジメントとは、需要予測に基づき、適切な時期に適切な価格にてお客さまにサービスを提供し、利益を最大化する手法であります。
- 2 R e v P A Rとは、Revenue Per Available Roomの略であり、宿泊に係る収入を客室総数で除したものであります。
- 3 M I C Eとは、企業などの会議（Meeting）、企業などがおこなう報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会などがおこなう国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称であります。

そのほか、ステイウェル ホールディングス Pty Ltdにおいて、新たに開業したホテルが増収に寄与するとともに、前期に事業を取得したAB ホテルズ Ltdが運営する「The Arch London」を、2019年9月に海外で展開するラグジュアリーブランド「The Prince Akatoki」の1号店として、英国・ロンドンにおいて「The Prince Akatoki London」にリブランドオープンいたしました。

ホテル・レジャー事業の営業収益は、台風19号などの自然災害の影響を受けたものの、上記の取り組みなどにより、1,688億83百万円と前年同期に比べ32億36百万円の増加（同2.0%増）となりました。しかしながら、営業利益は、将来の成長に資する経費の増加などにより、140億74百万円と前年同期に比べ12億95百万円の減少（同8.4%減）となりました。償却前営業利益は、267億68百万円と前年同期に比べ7億20百万円の減少（同2.6%減）となりました。

(不動産事業)

不動産事業の内訳は不動産賃貸業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	2019年3月期 第3四半期 連結累計期間	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	48,277	50,969	2,692
不動産賃貸業	35,243	36,662	1,418
その他	13,033	14,307	1,273

不動産賃貸業で、2019年4月に開業したダイヤゲート池袋が増収に寄与したほか、軽井沢・プリンスショッピングプラザなどの商業施設が積極的なプロモーションや営業施策を実施したことにより、好調に推移いたしました。

また、2019年9月に入居を開始したエミリブ東長崎を含め、賃貸住宅が高稼働を継続し、好調に推移いたしました。

そのほか、西武池袋線保谷駅にてマンションの引渡しをおこないました。

これらの結果、不動産事業の営業収益は、509億69百万円と前年同期に比べ26億92百万円の増加（同5.6%増）となりました。営業利益は、ダイヤゲート池袋にかかる減価償却費が増加したものの、増収により150億19百万円と前年同期に比べ11百万円の増加（同0.1%増）となりました。償却前営業利益は、238億21百万円と前年同期に比べ11億79百万円の増加（同5.2%増）となりました。

(建設事業)

建設事業の内訳は建設業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	2019年3月期 第3四半期 連結累計期間	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	75,589	76,389	800
建設業	55,370	53,706	△1,664
その他	20,218	22,683	2,464

(注) 建設業には西武建設株式会社による兼業事業売上高を含んでおります。西武建設株式会社は、保有不動産の一部を賃貸しており、当該売上高を建設業の営業収益に計上しております。

建設業で、公共工事や民間住宅工事の施工を進めたほか、厳正な受注管理や原価管理の徹底などにより利益率の改善にも努めてまいりました。

そのほか、造園請負工事や、西武建材株式会社の仕入販売が好調に推移いたしました。

これらの結果、建設事業の営業収益は、763億89百万円と前年同期に比べ8億円の増加(同1.1%増)となりました。営業利益は、一般管理費の増加などにより、35億10百万円と前年同期に比べ1億46百万円の減少(同4.0%減)となりました。償却前営業利益は、38億36百万円と前年同期に比べ1億28百万円の減少(同3.2%減)となりました。

(ハワイ事業)

ハワイ事業では、2018年6月にリニューアルオープンしたウェスティン ハプナ ビーチ リゾートが増収に寄与したほか、プリンス ワイキキ、マウナ ケア ビーチ ホテルでは、積極的なプロモーション活動や営業施策が奏功し、宿泊部門と飲食部門において、堅調に推移いたしました。

これらの結果、ハワイ事業の営業収益は、166億1百万円と前年同期に比べ26億58百万円の増加(同19.1%増)となり、営業利益は、2億69百万円と前年同期に比べ14億63百万円の増加(前年同期は、営業損失11億94百万円)となり、償却前営業利益は、23億42百万円と前年同期に比べ16億40百万円の増加(同233.7%増)となりました。

(その他)

西武ライオンズでは、好調なチーム成績や各種営業施策の実施により、観客動員数が前年同期比で増加したことや、メットライフドームにおいて積極的にコンサートを開催したことなどにより増収となりました。

近江事業では、土山サービスエリアが新名神高速道路の新ルート開通もあり好調に推移いたしました。

これらの結果、営業収益は、353億84百万円と前年同期に比べ7億22百万円の増加(同2.1%増)となり、営業利益は、27億61百万円と前年同期に比べ1億74百万円の増加(同6.8%増)となり、償却前営業利益は、52億38百万円と前年同期に比べ3億99百万円の増加(同8.3%増)となりました。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、第3四半期連結累計期間までの業績等を踏まえ、2019年5月14日に公表いたしました業績予想を変更しております。

西武ライオンズのクライマックスシリーズ進出効果はあったものの、ホテル・レジャー事業を中心に、2019年10月の台風19号などの自然災害の影響に加え、この先新型コロナウイルス流行に伴う予約キャンセルの影響が見込まれること、ハワイ事業において、計画していた不動産売却が見送りとなったことなどにより、営業収益は5,738億円（前期比1.4%増）、営業利益は675億円（同8.0%減）、償却前営業利益は1,257億円（同1.3%減）と、前回予想からそれぞれ106億円、35億円、28億円下方修正をしております。

各セグメントにおける営業収益及び営業利益、償却前営業利益の見通しは以下のとおりであります。

（単位：億円）

セグメントの名称	営業収益			営業利益			償却前営業利益		
	当連結 会計年度 (今回予想)	前回予想値 増減率 (%)	前期比 増減率 (%)	当連結 会計年度 (今回予想)	前回予想値 増減率 (%)	前期比 増減率 (%)	当連結 会計年度 (今回予想)	前回予想値 増減率 (%)	前期比 増減率 (%)
都市交通・沿線事業	1,647	△0.8	1.0	252	△1.6	△7.0	475	△1.7	△2.6
ホテル・レジャー事業	2,229	△4.7	1.4	175	△16.3	△11.4	346	△8.5	△4.1
不動産事業	665	0.6	△4.5	179	5.3	△10.9	297	3.5	△2.4
建設事業	1,137	4.7	3.7	53	△1.9	△10.0	58	△1.7	△8.2
ハワイ事業	224	△11.8	17.3	5	△76.2	—	32	△36.0	165.3
その他	428	4.9	2.1	5	—	△60.1	39	25.8	△9.6
合計	6,330	△1.2	1.6	669	△5.5	△8.0	1,247	△3.2	△1.9
調整額	△592	—	—	6	200.0	△6.4	10	—	332.0
連結数値	5,738	△1.8	1.4	675	△4.9	△8.0	1,257	△2.2	△1.3

（注）1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。

2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却額を加えて算定しております。

営業利益が想定を下回っていることなどにより、経常利益は592億円（前期比9.5%減）と前回予想から35億円下方修正をしております。

また、台風19号などの自然災害からの復旧に伴う損失を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は400億円（同12.0%減）と前回予想から62億円下方修正をしております。

（注）連結業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,549	25,845
受取手形及び売掛金	69,394	64,435
分譲土地建物	8,431	7,494
商品及び製品	1,462	1,325
未成工事支出金	10,274	5,566
原材料及び貯蔵品	3,042	3,601
その他	15,410	16,286
貸倒引当金	△52	△51
流動資産合計	134,512	124,505
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	561,167	554,339
機械装置及び運搬具(純額)	63,435	66,220
土地	729,368	729,478
リース資産(純額)	4,652	7,283
建設仮勘定	58,955	71,429
その他(純額)	24,735	23,199
有形固定資産合計	1,442,314	1,451,951
無形固定資産		
リース資産	8	10
その他	23,507	21,665
無形固定資産合計	23,516	21,676
投資その他の資産		
投資有価証券	74,689	70,624
長期貸付金	317	311
退職給付に係る資産	31,388	30,331
繰延税金資産	12,832	12,326
その他	9,931	8,357
貸倒引当金	△572	△440
投資その他の資産合計	128,587	121,511
固定資産合計	1,594,417	1,595,138
資産合計	1,728,929	1,719,644

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,907	23,319
短期借入金	165,274	178,519
リース債務	653	1,192
未払法人税等	8,517	5,878
前受金	50,033	58,294
賞与引当金	5,862	3,024
その他の引当金	2,701	4,780
資産除去債務	15	27
その他	103,273	71,950
流動負債合計	367,238	346,986
固定負債		
社債	30,000	40,000
長期借入金	684,616	668,063
鉄道・運輸機構長期未払金	18,668	16,826
リース債務	1,538	4,260
繰延税金負債	106,931	105,792
再評価に係る繰延税金負債	12,208	12,211
役員退職慰労引当金	738	735
役員株式給付引当金	—	38
その他の引当金	522	243
退職給付に係る負債	31,716	32,506
資産除去債務	2,129	2,100
持分法適用に伴う負債	16,368	15,707
その他	33,536	34,145
固定負債合計	938,976	932,631
負債合計	1,306,214	1,279,618
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	110,274	110,271
利益剰余金	253,199	279,645
自己株式	△53,922	△56,449
株主資本合計	359,551	383,467
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,365	16,635
土地再評価差額金	18,562	18,560
為替換算調整勘定	5,415	3,359
退職給付に係る調整累計額	13,921	11,625
その他の包括利益累計額合計	57,264	50,180
新株予約権	504	537
非支配株主持分	5,394	5,839
純資産合計	422,715	440,025
負債純資産合計	1,728,929	1,719,644

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業収益	421,662	432,626
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	333,887	341,121
販売費及び一般管理費	28,967	32,015
営業費合計	362,855	373,137
営業利益	58,807	59,488
営業外収益		
受取利息	53	15
受取配当金	858	872
バス路線運行維持費補助金	384	363
その他	1,133	1,000
営業外収益合計	2,429	2,252
営業外費用		
支払利息	7,656	7,537
持分法による投資損失	78	88
その他	882	786
営業外費用合計	8,618	8,412
経常利益	52,618	53,327
特別利益		
固定資産売却益	337	258
工事負担金等受入額	132	278
補助金収入	65	51
投資有価証券売却益	—	10
移籍補償金	210	—
その他	87	170
特別利益合計	832	770
特別損失		
減損損失	177	160
固定資産売却損	325	14
固定資産除却損	1,587	1,270
工事負担金等圧縮額	118	270
固定資産圧縮損	53	39
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	1,186	0
災害による損失	—	200
災害損失引当金繰入額	—	2,206
その他	96	102
特別損失合計	3,544	4,265
税金等調整前四半期純利益	49,906	49,832
法人税、住民税及び事業税	11,029	12,170
法人税等調整額	2,063	340
法人税等合計	13,092	12,511
四半期純利益	36,814	37,321
非支配株主に帰属する四半期純利益	455	491
親会社株主に帰属する四半期純利益	36,358	36,829

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	36,814	37,321
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△572	△2,730
土地再評価差額金	—	△1
為替換算調整勘定	△253	△2,055
退職給付に係る調整額	△2,968	△2,300
その他の包括利益合計	△3,794	△7,088
四半期包括利益	33,020	30,232
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,567	29,745
非支配株主に係る四半期包括利益	452	486

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	都市交通 ・沿線事業	ホテル・ レジャー 事業	不動産事業	建設事業	ハワイ事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益	122,748	165,646	48,277	75,589	13,943	34,661	460,865	△39,203	421,662
セグメント利益 又は損失(△)	22,906	15,369	15,008	3,656	△1,194	2,586	58,333	474	58,807

(注)1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業及び西武ライオンズを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額474百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	都市交通 ・沿線事業	ホテル・ レジャー 事業	不動産事業	建設事業	ハワイ事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益	123,873	168,883	50,969	76,389	16,601	35,384	472,102	△39,476	432,626
セグメント利益	22,926	14,074	15,019	3,510	269	2,761	58,561	927	59,488

(注)1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業及び西武ライオンズを含んでおります。

2 セグメント利益の調整額927百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。